

実務実習終了後の感染症に関する選択講義とアンサーパッド使用の有用性

○木津 純子¹, 堀 誠治^{1,2} (1慶應大薬, 2慈恵医大)

【目的】実務実習を終了した薬学科6年次学生に感染症専門医による選択講義“臨床薬剤師のための感染症の知識”を実施した。講義には毎回アンサーパッドを用いた設問を導入し、学生の知識を確認しながら実施した。今回、受講した学生を対象に、講義の内容、アンサーパッドの有用性などについて調査した。

【方法】6年次前期に12コマ1単位の選択講義（感染症に関する知識の確認および症例を基にした臨床現場における感染症治療の実践など）を行い、各講義には複数設問を用意し、各学生がアンサーパッドを用いて行った回答をすぐに集計し、事前の知識について確認した後、講義を実施した。全講義終了後に講義内容、アンサーパッドの有用性などについて、アンケート調査を実施した。

【結果】72名（病院薬剤師希望40名、薬局薬剤師希望20名、製薬会社希望7名、その他5名）が受講した。講義後、“自分自身の知識不足”60名、“感染症知識の増加”48名、“感染症治療の難しさ”47名、“感染症専門医の講義が有用”と43名が回答した。今までの講義との重複は1名であった。4段階選択方式の設問では、講義への興味は“大変持てた”、“持てた”が81%、将来の有用性は“大変役立つ”、“役立つ”が82%であった。いずれも病院薬剤師希望の学生が“大変”と回答した率が高かった。アンサーパッドは、知識の確認に“大変役立った”、“役立った”70%、アンサーパッド後の講義は“大変よかった”、“よかった”68%であった。

【考察】実務実習終了後の薬学生に、感染症専門医により感染症に関する講義を実施することは有用性が高く、学生のニーズに呼応していることが確認された。また、アンサーパッドによる事前の知識確認も有用であった。今後、習熟度を確認する講義後の設問設定など、さらなる工夫を重ねていく予定である。